

東北地方 1か月予報

(12月14日から1月13日までの天候見通し)

平成14年12月13日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

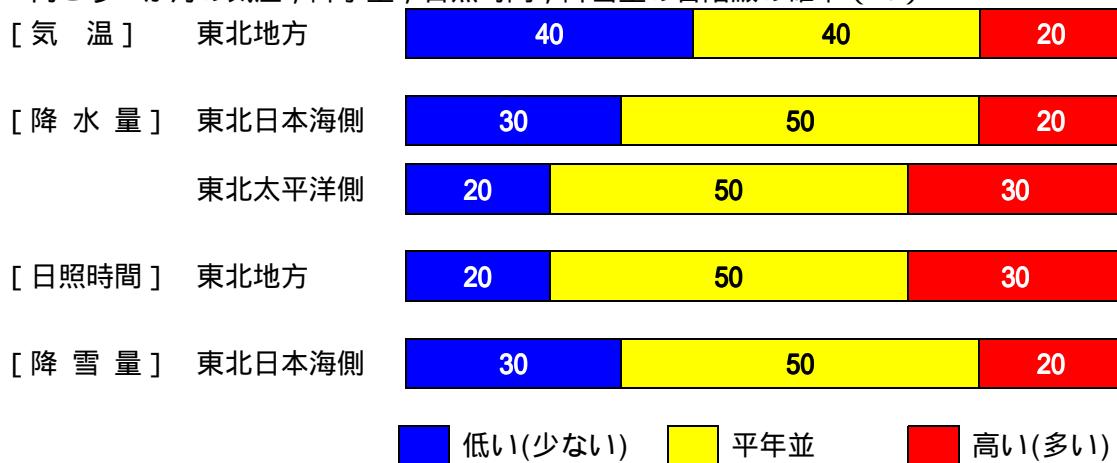
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

1週目、天気はおおむね周期的に変化しますが、2週目以降は冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

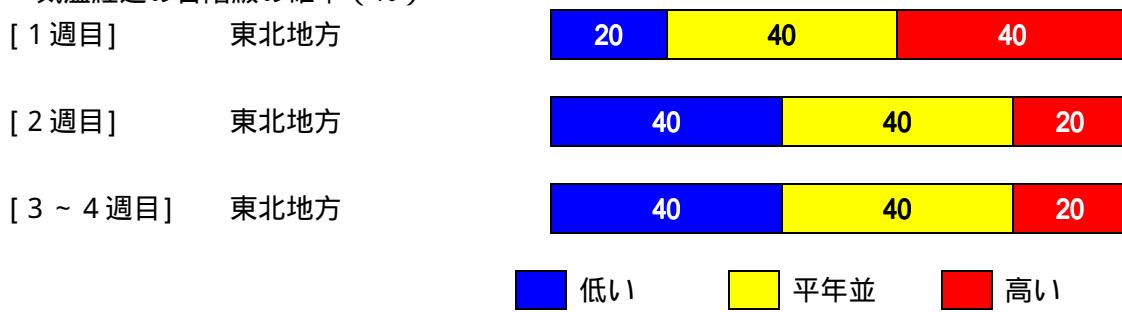
向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並、日照時間は平年並、東北日本海側の降雪量は平年並の見込みです。

週別の気温は、1週目は平年並か高く、2週目、3~4週目は共に平年並か低いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 12月14日(土) ~ 1月13日(月)

1週目 : 12月14日(土) ~ 12月20日(金)

2週目 : 12月21日(土) ~ 12月27日(金)

3~4週目 : 12月28日(土) ~ 1月10日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日14時30分 次回は12月20日

3か月予報 : 12月24日(火) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間, 降雪量と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪量 (cm)	気温()		
					1週目	2週目	3~4週目
大船渡	2.1	37.5	143.0	0	3.0	2.5	1.7
新庄	-0.1	201.3	38.3	-----	0.9	0.4	-0.5
若松	0.6	87.2	72.6	114	1.6	1.0	0.1
深浦	1.2	111.4	32.1	58	2.1	1.6	0.8
青森	-0.1	142.7	53.4	218	0.9	0.3	-0.5
むつ	-0.1	90.7	73.1	-----	0.8	0.3	-0.5
八戸	0.2	41.6	129.2	25	1.2	0.7	-0.2
秋田	1.3	138.6	45.2	73	2.4	1.8	0.9
盛岡	-0.6	55.1	111.9	55	0.4	-0.2	-1.1
宮古	1.7	40.7	154.2	4	2.6	2.1	1.3
酒田	2.9	176.9	40.6	47	3.9	3.4	2.5
山形	0.9	81.7	84.6	91	2.0	1.4	0.4
仙台	2.9	31.6	146.3	20	3.9	3.4	2.4
石巻	1.9	30.6	159.0	0	2.9	2.4	1.5
福島	2.8	39.0	130.5	31	3.9	3.2	2.3
白河	1.5	28.3	155.3	-----	2.5	1.8	1.0
小名浜	4.8	39.4	185.0	0	5.8	5.2	4.4

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります。下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.2~+0.7	75~ 98	97~ 105	65~ 105
東北日本海側	-0.2~+0.6	91~ 105	91~ 108	75~ 110
東北太平洋側	-0.2~+0.7	61~ 101	97~ 105	55~ 98

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.6	-0.6~+0.8	-0.2~+0.6
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.7	-0.3~+0.6
東北太平洋側	-0.6~+0.7	-0.6~+0.8	-0.2~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年12月13日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(12月14日～1月13日)：

1週目、天気はおおむね周期的に変化しますが、2週目以降は冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

1週目(12月14日～12月20日)：

気圧の谷が周期的に通り、天気のくずれる日があるでしょう。通過後は一時的に冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雨で雪の混じることがあります、東北太平洋側ではおおむね晴れる見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(12月21日～12月27日)：

気圧の谷が周期的に通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3～4週目(12月28日～1月10日)：

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

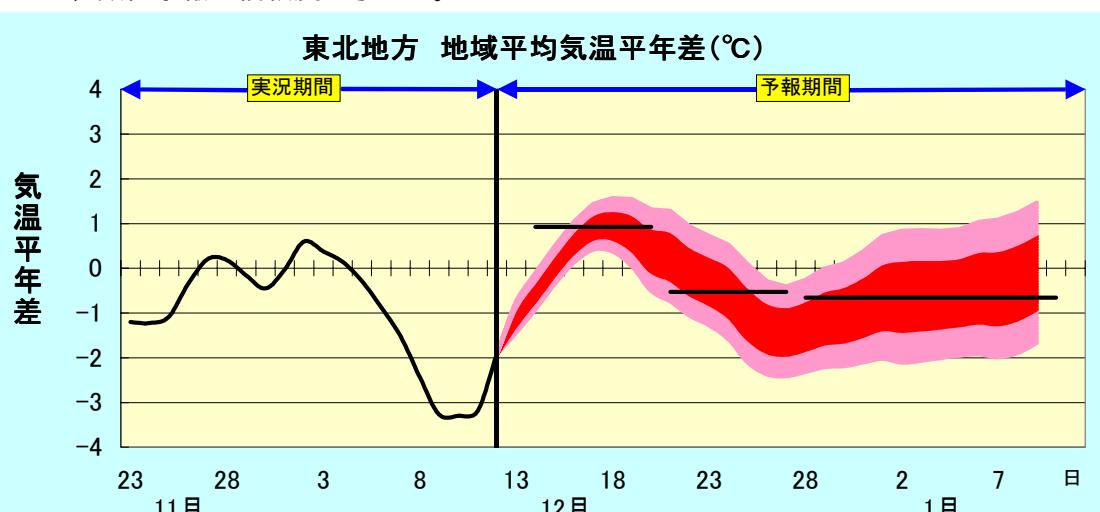
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	4.6日	1.1日	1.2日	2.3日
東北太平洋側	17.1日	4.3日	4.2日	8.6日

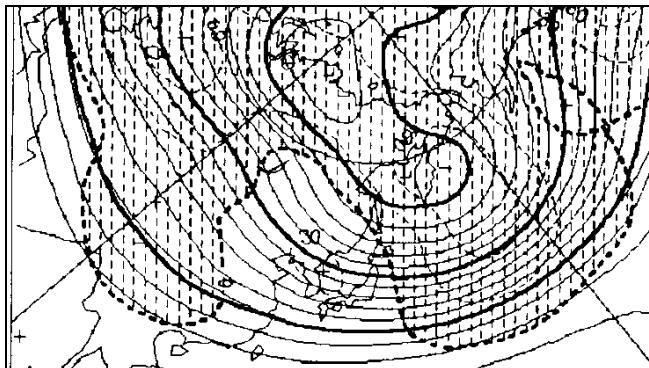
2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目「高い」、2週目「平年並」、3～4週目「低い」を予測している。予報は、1週目「平年並か高い」、2週目、3～4週目を「平年並か低い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。



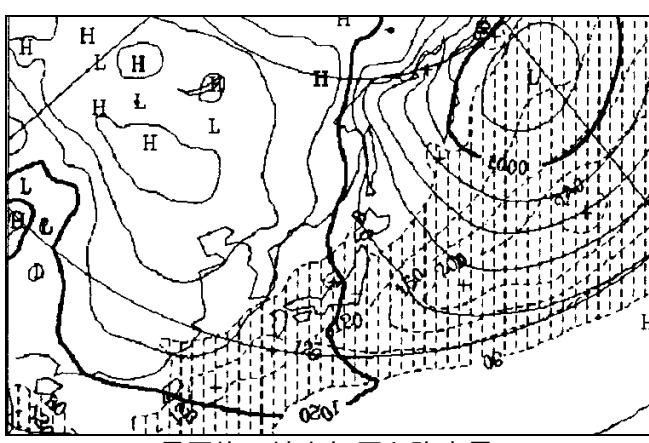
3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa高度・偏差

月平均で見ると、日本の東海上はカムチャッカ半島の東に中心を持つ負偏差に覆われるが、大陸から日本付近かけては正偏差が広がる。

週別（図略）では、1週目は日本付近は日本海に中心を持つ正偏差に覆われる。2週目は日本付近は北海道を除き南からの正偏差に覆われるが、北海道以北は負偏差。3～4週目は日本付近から東海上にかけて広く負偏差となる。



地上気圧と降水量

月平均で見ると、アリューシャン列島附近には低気圧があり、大陸には高気圧があって北日本を中心に冬型の気圧配置となっている。

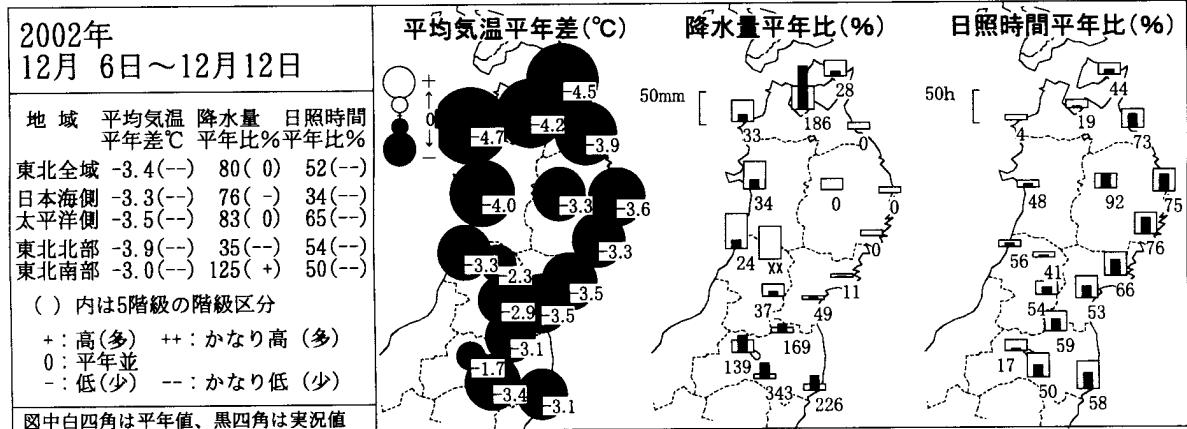
降水域は日本海から太平洋にかけて広がるが、日本の南が低圧部となっているため、南岸にまとまった降水域がのびる。

週別（図略）では、1週目は等圧線の間隔はまばらで、周期変化が基調となる。2週目以降は月平均とほぼ同様で、冬型の気圧配置となる日が多い見込み。

4. 最近1週間（12月6日～12月12日）の天候の経過

期間のはじめ、日本の南岸を低気圧がゆっくり東進した。東北地方はおおむね曇りとなったが、9～10日にかけて東北南部を中心に雪となり、小名浜で9日に15cmの積雪（12月として第1位）を観測した。その後は冬型の気圧配置が続き、東北日本海側を中心に曇りや雪となった。青森では11日の降雪量が67cm（通年で第1位）と大雪になった。

平均気温は、東北地方で平年差-3.4℃とかなり低かった。降水量は、東北北部で平年比35%とかなり少なく、東北南部で平年比125%と多かった。日照時間は、平年比52%とかなり少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）